

科目名	在宅看護方法Ⅱ (看護実践) In-Home Nursing Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	日比野 直子 (406)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次 前期	科目区分	専門科目・広域看護学		選択区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業形態	講義・演習	科目等履修生	否
科目目的	在宅療養をするあらゆる年代の療養者・家族に及ぼす影響や問題について、療養者・家族の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を習得する。さらに、在宅療養者に多い疾患を事例にあげ看護過程を展開し、在宅で暮らす療養者と家族が有する看護問題を地域包括ケアシステムの中において解決する能力を養う。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連するDP	B 人々の生活に根差した看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
到達目標	1. 療養者・家族のニーズに合わせた在宅看護実践について説明できる。 2. 在宅で医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について根拠を理解し説明できる。											
成績評価方法 (基準)	筆記試験50% レポート課題50%											
再試験の有無と基準等	再試験有。不合格者は再試験受験資格とする。再試験の内容は面談で確認し課題レポートとする。											
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院											
参考書等	適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	在宅療養者の暮らしをアセスメントし、在宅看護過程の展開方法をグループで演習した後、個人で取り組むことで、1人でアセスメントする力をつけていきます。療養者に必要な在宅で行われる医療処置の技術をモデルや在宅で用いられる医療機器を用いて経験し手技を学びます。											
備考	在宅看護方法Ⅰの単位を修得していなければ受講できない。											
回	学習項目	学習内容					担当教員	授業方法				
1回	訪問看護の概要	訪問看護のシステムについて理解する 訪問看護ステーションの活動について理解する 訪問看護の根拠となる制度が理解できる 地域包括ケアシステムの構築として在宅看護が担う役割について理解する					日比野	講義				
2回	医療依存度の高い療養者の家族への援助①	在宅での医療処置の現状を捉え医療行為(医行為)について理解する 在宅人工呼吸療法(HMV NIPPV含む)について必要な看護や緊急時の対応について理解する					日比野	講義				
3回	医療依存度の高い療養者の家族への援助②	褥瘡ケア ストーマ管理 膀胱留置カテーテル 間欠導尿 腹膜透析(CAPD)について在宅で必要な看護について理解する					日比野	講義				
4回	医療依存度の高い療養者の家族への援助③	中心静脈栄養管理(CVポート含む) 経管経腸栄養法 麻薬等を用いた疼痛管理 服薬管理 について在宅で必要な看護や適切な対応について理解する					日比野	講義				
5回	在宅看護過程の考え方と展開方法①	在宅看護過程の進め方を理解する 在宅看護過程におけるアセスメント、計画立案、評価について学ぶ					日比野 他	講義				
6回	在宅看護過程の考え方と展開方法②	在宅看護過程の進め方を理解する 在宅看護過程におけるアセスメント、計画立案、評価について学ぶ					日比野 他	演習				
7・8回	在宅看護過程の事例展開①② 技術演習 (7・8回 2限続き)	2種類の事例から1つ(複数の疾患を抱える高齢者)を、看護過程の展開についてグループで取り組む。 事例A:脳梗塞後遺症と糖尿病 事例B: COPDと高血圧 疾患があっても自立した生活を維持するための生活支援とは何かに着目し、援助の内容を考える。 ポケットエコー、CVポートの技術演習					日比野 他	演習				
9・10回	在宅看護過程の事例展開③④ 技術演習 (9・10回 2限続き)	2種類の事例から1つ(複数の疾患を抱える高齢者)を、看護過程の展開についてグループで取り組む。 事例A:脳梗塞後遺症と糖尿病 事例B: COPDと高血圧 疾患があっても自立した生活を維持するための生活支援とは何かに着目し、援助の内容を考える。					日比野 他	演習				
11回	在宅看護過程の事例展開⑤	事例のアセスメントと立案した看護計画をPPT資料としてまとめる ※PC持参					日比野 他	演習				
12回	在宅看護過程の事例展開⑥	グループ学修の成果報告と討議 事例A B 第11回で作成したスライド資料を用いて事例の看護過程の展開を発表する					日比野 他	演習				
13・14回	訪問看護に必要なマナー (13・14回 2限続き)	訪問看護に必要な基本的なマナーや態度について理解する 実際の訪問看護の場面をDVDで視聴する 実際の訪問看護の同行場面を想定したロールプレイを行う					日比野 他	演習				
15回	在宅療養に必要な災害対策	過去に発生した自然災害から災害に対する準備と対応について考える 訪問看護ステーションと在宅療養者に必要な備えについて考える					日比野	講義				
学 習 課 題												
<p>第2回目講義の事前課題:在宅人工呼吸療法(HMV NIPPV含む)について「その治療や療法が行われている背景」「在宅で治療が必要となる対象者」「在宅で必要な看護」について調べノート(手書き可)を作成して講義に参加する。</p> <p>第3回目講義の事前課題:褥瘡ケア ストーマ管理 膀胱留置カテーテル 間欠導尿 腹膜透析(CAPD)について「その治療や療法が行われている背景」「在宅で治療が必要となる対象者」「在宅で必要な看護」について調べノート(手書き可)を作成して講義に参加する。</p> <p>第4回目講義の事前課題:中心静脈栄養管理(CVポート含む) 経管経腸栄養法 麻薬等を用いた疼痛管理について「その治療や療法が行われている背景」「在宅で治療が必要となる対象者」「在宅で必要な看護」について調べノート(手書き可)を作成して講義に参加する。</p> <p>第7～10回目で行った看護過程については、グループで作成したものを参考にし、別の事例を個人で作成し提出する。提出は、第15回講義終了後とする。</p> <p>第7～10回では、事例に取り組むグループワークと演習グループに分かれ、CVポート、ポケットエコーを用いた技術演習を行う。</p>												
実務経験を活かした教育の取組												
・担当教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。												